



平成27年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年7月29日

上場取引所 東

上場会社名 宝ホールディングス株式会社

コード番号 2531 URL <http://www.takara.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 柿本 敏男

問合せ先責任者 (役職名) 財務・IR部長

(氏名) 掛見 卓也

TEL 075-241-5124

四半期報告書提出予定日 平成26年8月8日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第1四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第1四半期	50,025	6.5	1,182	—	1,486	—	811	—
26年3月期第1四半期	46,953	△0.8	△241	—	20	△98.2	△86	—

(注) 包括利益 27年3月期第1四半期 149百万円 (△93.7%) 26年3月期第1四半期 2,364百万円 (120.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第1四半期	4.03	—
26年3月期第1四半期	△0.43	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第1四半期	233,915	144,714	51.3
26年3月期	238,577	146,422	50.9

(参考) 自己資本 27年3月期第1四半期 119,989百万円 26年3月期 121,431百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	—	—	11.00	11.00
27年3月期	—	—	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	9.00	9.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

26年3月期 期末配当金の内訳 普通配当 9円00銭 特別配当 2円00銭

3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	101,000	3.5	2,570	7.3	2,570	0.2	1,250	△81.1	6.21
通期	218,000	4.0	9,800	3.3	10,000	0.9	5,300	△48.4	26.34

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 有
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 有
 - ④ 修正再表示 : 無

(注) 当第1四半期より減価償却方法の変更を行っており、「会計方針の変更を会計上の見積りの変更と区別することが困難な場合」に該当しております。詳細は、添付資料4ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期1Q	217,699,743 株	26年3月期	217,699,743 株
② 期末自己株式数	27年3月期1Q	16,473,135 株	26年3月期	16,466,424 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期1Q	201,230,699 株	26年3月期1Q	202,862,913 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

平成26年5月8日発表の連結業績予想の見直しは行っておりません。本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報)	9

○ 第1四半期決算短信補足資料

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、消費税増税にともなう駆け込み需要の反動がありました。その影響は徐々に緩和され、景気は穏やかに回復してまいりました。

このような環境のなか、当社グループでは、長期経営ビジョン「TaKaRaグループ・ビジョン2020」の実現へ向け、「国内では収益力の向上、海外では事業の拡大・伸長に取り組むとともに、バイオ事業の成長加速により、環境変化に強いバランスのとれた事業構造に変革していく」ことを基本方針とする3カ年の中期経営計画「TaKaRaグループ中期経営計画2016」のもと、更なるグループ企業価値の向上を目指しております。

国内酒類事業においては、多様化する消費者嗜好に対応したオリジナリティある新製品の開発やブランド育成に注力し、また調味料・酒精事業においても顧客企業に対し、差異化されたユーザーニーズに応える商品提案を行うことにより、売上高の拡大を図っております。

海外酒類事業、海外日本食材卸事業では、両事業を通じて日本食文化を世界に広げることによって事業成長を加速させることを目指しております。

バイオ事業では、長年培われたバイオテクノロジーを活用し、バイオ産業支援事業、遺伝子医療事業、医食品バイオ事業の3つの領域に経営資源を集中し、業績の向上に努めました。

当第1四半期連結累計期間の売上高は、前連結会計年度に連結した子会社の売上が新たに加わったこと、円安による海外子会社の売上の増加があったことにより、前年同期比106.5%の50,025百万円となりました。また、売上高の増加にともない売上総利益も前年同期比109.3%の18,994百万円となりました。

販売費及び一般管理費は、前年同期比101.1%の17,811百万円となりましたので、営業損益は、前年同期の241百万円の営業損失から1,182百万円の営業利益と大幅に改善いたしました。営業外損益では、受取配当金や持分法による投資利益が増加したため、経常利益も前年同期の20百万円から1,486百万円と大幅な増益となりました。

特別損益では、固定資産除売却損などがありましたが、税金等調整前四半期純利益も前年同期に比べ大幅に増加し1,411百万円となり、四半期純損益も前年同期の86百万円の四半期純損失から811百万円の四半期純利益となりました。

セグメントの業績の概要は次のとおりであります。

[宝酒造グループ]

当四半期の売上高は、酒類ではソフトアルコール飲料は減少いたしましたが、“松竹梅白壁蔵「霽」スパークリング清酒”が好調に推移した清酒が増加し、酒類全体では微増となりました。調味料では消費税増税による駆け込み需要の反動減によりみりんが減少したほか、原料用アルコール等や物流も減少いたしました。

一方、前連結会計年度に連結子会社としたTAZAKI FOODS LTD. (英国)、COMINPORT DISTRIBUCIÓN S.L. (スペイン)等の売上が加わったことにより海外日本食材卸が大幅に増加したため、当セグメント全体では前年同期比105.7%の44,370百万円と増収となりました。

売上原価は、売上高の増加につれて、前年同期比105.1%の28,623百万円と増加したため、売上総利益も前年同期比106.9%の15,746百万円となりました。販売費及び一般管理費は人件費や管理費が増加したものの広告宣伝費の減少により、前年同期比100.3%の14,916百万円にとどまったため、セグメント営業損益は830百万円の営業利益（前年同期は134百万円の営業損失）となりました。

[タカラバイオグループ]

当四半期の売上高は、主力の研究用試薬が円安の影響もあり前年同期を上回ったため、前年同期比114.6%の4,779百万円となりました。売上原価は、品目別の原価率の違いにより原価率が低下し、前年同期比102.4%の2,024百万円となりましたので、売上総利益は、前年同期比125.6%の2,754百万円となりました。販売費及び一般管理費は、人件費等の増加により、前年同期比105.4%の2,689百万円となりましたものの、セグメント営業利益は65百万円（前年同期は358百万円の営業損失）となりました。

[宝ヘルスケア]

当四半期の売上高は、注力しているフコイダン関連製品やイソサミジン関連製品の好調により、前年同期比131.6%の385百万円と大幅な増収となりました。売上の増加により売上総利益も増加しましたが、販売費及び一般管理費は前年同期に比べ減少したため、セグメント営業損益は9百万円の営業利益（前年同期は39百万円の営業損失）となりました。

[その他]

報告セグメント以外のその他のセグメントの売上高は前年同期比95.9%の1,594百万円となり、営業利益は前年同期比22.3%の6百万円となりました。

品種別販売実績

セグメントの名称		前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	前年同期比
	品種	金額(百万円)	金額(百万円)	(%)
宝酒造グループ				
	焼酎	16,484	16,609	100.8
	清酒	3,910	4,238	108.4
	ソフトアルコール飲料	6,903	6,403	92.8
	その他酒類	2,962	3,239	109.4
	酒類計	30,261	30,491	100.8
	本みりん	3,330	3,097	93.0
	その他調味料	1,952	2,014	103.2
	調味料計	5,282	5,111	96.8
	原料用アルコール等	1,670	1,588	95.1
	物流	2,811	2,731	97.1
	海外日本食材卸	1,544	4,032	261.0
	その他	407	415	101.8
	計	41,978	44,370	105.7
タカラバイオグループ		4,170	4,779	114.6
宝ヘルスケア		292	385	131.6
その他		1,663	1,594	95.9
事業セグメントに配分していない 収益およびセグメント間取引消去		△1,151	△1,104	—
合計		46,953	50,025	106.5

(注) 販売金額には酒税を含んでおりますが、消費税等は含まれておりません。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、余資の運用としての有価証券の減少などにより流動資産が6,298百万円減少し、上場株式の時価上昇による投資有価証券の増加などにより固定資産が1,637百万円増加したため、前連結会計年度末に比べ4,661百万円減少し、233,915百万円となりました。なお、有価証券の減少は主として法人税等の支払による支出にあてたものであります。

負債合計は、1年内償還予定の社債の固定・流動の振替や未払法人税の減少などにより流動負債が1,884百万円増加し、固定負債は4,838百万円減少したため、前連結会計年度末に比べ2,953百万円減少し、89,201百万円となりました。

純資産合計は配当金の支払いによる利益剰余金の減少などにより、前連結会計年度末に比べ1,708百万円減少し、144,714百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期連結累計期間の連結業績は、売上高、利益ともに期初の計画を若干上回り進捗しております。しかしながら、当社グループの第1四半期利益の年間利益に占める割合が比較的低いこと、今後の消費動向、為替動向が不透明であることなどから、平成26年5月8日に公表した平成27年3月期の連結業績予想につきましては、第2四半期連結累計期間、通期ともに見直しを行っておりません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法についても、従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第1四半期連結会計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第1四半期連結会計期間の期首の退職給付に係る負債が313百万円減少し、投資その他の資産のその他が359百万円、利益剰余金が414百万円、少数株主持分が16百万円、それぞれ増加しております。なお、当第1四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響は軽微であります。

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

連結子会社であるタカラバイオ株式会社は、有形固定資産の減価償却の方法に主として定率法を採用していましたが、当第1四半期連結会計期間より定額法に変更しております。

この変更は、同社設立から12年が経過し、また、当連結会計年度より遺伝子・細胞プロセッシングセンター等が稼働することから、研究開発活動及び生産活動において有形固定資産の安定的な使用が見込まれる状況になったことを受け、償却方法を再検討した結果、定率法から定額法に変更することが合理的であると判断したことによるものであります。

この変更により、当第1四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ15百万円増加しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	41,015	38,381
受取手形及び売掛金	51,901	50,392
有価証券	21,534	18,013
商品及び製品	26,729	27,331
仕掛品	908	1,039
原材料及び貯蔵品	3,351	3,210
その他	5,254	6,034
貸倒引当金	△143	△150
流動資産合計	150,551	144,252
固定資産		
有形固定資産	47,976	48,727
無形固定資産		
のれん	7,539	7,260
その他	4,123	4,076
無形固定資産合計	11,662	11,336
投資その他の資産		
投資有価証券	23,532	24,600
その他	5,077	5,231
貸倒引当金	△223	△232
投資その他の資産合計	28,386	29,599
固定資産合計	88,025	89,662
資産合計	238,577	233,915
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	14,416	14,209
短期借入金	5,914	5,801
1年内償還予定の社債	—	5,000
未払酒税	8,376	7,579
未払費用	4,480	3,763
未払法人税等	5,621	679
賞与引当金	2,081	3,218
その他の引当金	1,817	1,893
その他	5,953	8,402
流動負債合計	48,663	50,548
固定負債		
社債	25,000	20,000
長期借入金	310	301
退職給付に係る負債	6,943	6,663
長期預り金	5,591	5,647
その他	5,644	6,041
固定負債合計	43,491	38,653
負債合計	92,154	89,201

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,226	13,226
資本剰余金	3,196	3,196
利益剰余金	104,739	103,753
自己株式	△9,931	△9,936
株主資本合計	111,230	110,238
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,941	6,578
繰延ヘッジ損益	279	186
為替換算調整勘定	2,894	1,945
退職給付に係る調整累計額	1,085	1,039
その他の包括利益累計額合計	10,200	9,750
少数株主持分	24,991	24,724
純資産合計	146,422	144,714
負債純資産合計	238,577	233,915

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
売上高	46,953	50,025
売上原価	29,570	31,031
売上総利益	17,382	18,994
販売費及び一般管理費	17,624	17,811
営業利益又は営業損失(△)	△241	1,182
営業外収益		
受取配当金	186	221
持分法による投資利益	69	102
その他	144	147
営業外収益合計	400	470
営業外費用		
支払利息	114	121
その他	23	46
営業外費用合計	138	167
経常利益	20	1,486
特別利益		
固定資産売却益	0	4
持分変動利益	29	—
その他	2	—
特別利益合計	33	4
特別損失		
固定資産除売却損	19	37
役員退職慰労金	24	34
その他	0	7
特別損失合計	44	79
税金等調整前四半期純利益	9	1,411
法人税、住民税及び事業税	684	920
法人税等調整額	△540	△395
法人税等合計	144	524
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△134	886
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△47	75
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△86	811

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	△134	886
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	486	637
繰延ヘッジ損益	112	△94
為替換算調整勘定	1,781	△1,181
退職給付に係る調整額	—	△46
持分法適用会社に対する持分相当額	117	△51
その他の包括利益合計	2,498	△737
四半期包括利益	2,364	149
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,995	361
少数株主に係る四半期包括利益	368	△212

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	宝酒造 グループ	タカラバ イオグル ープ	宝ヘルス ケア	計				
売上高								
外部顧客への売上高	41,892	4,092	292	46,277	570	46,847	105	46,953
セグメント間の内部 売上高又は振替高	85	77	0	164	1,093	1,257	△1,257	—
計	41,978	4,170	292	46,441	1,663	48,104	△1,151	46,953
セグメント利益又は損 失(△)	△134	△358	△39	△532	31	△501	259	△241

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、印刷事業などの機能会社グループであります。

2. 調整額の内容は以下のとおりであります。

(1) 外部顧客への売上高は、当社において計上した不動産賃貸収益であります。

(2) セグメント利益又は損失は、セグメント間取引消去71百万円、事業セグメントに配分していない当社の損益187百万円であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	宝酒造 グループ	タカラバ イオグル ープ	宝ヘルス ケア	計				
売上高								
外部顧客への売上高	44,287	4,635	385	49,308	605	49,913	111	50,025
セグメント間の内部 売上高又は振替高	82	143	0	226	989	1,216	△1,216	—
計	44,370	4,779	385	49,535	1,594	51,129	△1,104	50,025
セグメント利益	830	65	9	905	6	912	270	1,182

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、印刷事業などの機能会社グループであります。

2. 調整額の内容は以下のとおりであります。

(1) 外部顧客への売上高は、当社において計上した不動産賃貸収益であります。

(2) セグメント利益は、セグメント間取引消去65百万円、事業セグメントに配分していない当社の損益205百万円であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

有形固定資産の減価償却の方法については、従来、連結子会社のタカラバイオ株式会社は、主として定率法によっておりましたが、当第1四半期連結会計期間より定額法に変更しております。

この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べ、第1四半期連結累計期間のセグメント利益が、「タカラバイオグループ」で15百万円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。